

つつじ

—— 発病・加害時期
 == 発病・加害最盛期

| 作型・病害虫名 | 月 | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|----|----|---|---|----|----|----|----|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| も ち 病 褐 斑 病 ツ ツ ジ ゲ ン バ イ コ ガ ネ ム シ 類 ベ ニ モ ン ア オ リ ン ガ | | | | | —— | —— | | | —— | | | |

もち病

防除方法

- 1 被害葉はほ場外に持ち出し処分する。
- 2 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を散布する。
 - ・ [Zボルドー](#) **M1** 【つつじ類 500倍 —/—】
 - ・ [バシタック水和剤75](#) **7** 【つつじ類 1,000倍 発病初期/8回】

褐斑病

防除方法

- 1 被害葉はほ場外に持ち出し処分する。
- 2 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ダコニール1000](#) **M5** 【つつじ類 1,000倍 —/6回】
- 3 発病したら、下記の薬剤を散布する。
 - ・ [トップジンM水和剤](#) **1** 【つつじ類 1,000~1,500倍 発病初期/5回】

ツツジゲンバイ

留意事項

- 1 幼虫・成虫とも葉裏に生息しているので、薬液散布の際は葉裏を中心に散布する。
- 2 ※の薬剤は同一成分アセフェートを含むため総使用回数は合計で5回以内。

防除方法

- 1 発生を認めたら、下記の薬剤を施用する。
 - ・ [トレボン乳剤](#) **3A** 【つつじ類 2,000倍 —/6回】
 - ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) **4A**
 【つつじ類 2,000倍 発生初期/5回】
 - ・ [トランスフォームフロアブル](#) **4C** 【つつじ類 2,000倍 発生初期/3回】
 - ・ [オルトラン水和剤](#) **1B**※ 【つつじ類 1,500倍 発生初期/5回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [ガゼット粒剤](#) 劇 1 A
【つつじ類 10g/株(但し、18kg/10aまで) 株元散布 生育期/1回】
- ・ [モスピラン粒剤](#) 4 A 【つつじ類 3~6kg/10a 株元散布 発生初期/1回】
- ・ [アドマイヤー1粒剤](#) 4 A 【つつじ類 6kg/10a 株元散布 発生初期/5回】
- ・ [ジェイエース粒剤](#) 1 B※ 【つつじ類 2g/株 株元散布 発生初期/5回】

コガネムシ類

防除方法

- 1 苗木の定植時に幼虫が生息している場合には、下記の薬剤を施用し、土壌とよく混和する。

- ・ [フォース粒剤](#) 劇 3 A
【つつじ類 コガネムシ類幼虫 9kg/10a 全面土壌混和 植付時/1回】
- ・ [アクタラ粒剤5](#) 4 A
【つつじ類 コガネムシ類幼虫 9kg/10a 全面土壌混和 植付時/1回】
【つつじ類 コガネムシ類幼虫 9kg/10a 株元散布 生育期/1回】
- ・ [オンコル粒剤5](#) 1 A
【つつじ類 コガネムシ類幼虫 9kg/10a 全面土壌混和または株元土壌混和 定植時/1回】
【つつじ類 コガネムシ類幼虫 9kg/10a 全面土壌混和または株元土壌混和 生育期/3回】

ベニモンアオリンガ

留意事項

- 1 幼虫が新芽やつぼみに食い入り、内部を食い荒らす。新芽周辺を探しても見つからないことが多い。1匹で多くの芽をかじるので被害の割に虫は少ない。
- 2 翌年のつぼみができる7~8月の発生に注意する。

防除方法

- 1 被害芽はほ場外に持ち出し処分する。
 - 2 新芽のしおれや赤枯れの発生がみられたら、下記の薬剤を散布する。
- ・ [オルトラン液剤](#) 1 B 【つつじ類 250~500倍 発生初期/5回】
 - ・ [チューリサイド水和剤](#) 1 1 A 【つつじ類 1,000倍 発生初期/ー】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。